

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200443		
法人名	社会福祉法人 鶴寿会		
事業所名	グループホーム さわやか		
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字筑畑8-3		
自己評価作成日	平成29年 9月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間にある施設ですが自然豊かで散歩をしながら四季折々の草花や山菜等に触れることができ、それをもとに昔話や体験談も出てくることがあります。自然と触れ合い楽しみながらゆったりと過ごして頂いています。町の行事やイベントにも積極的に参加し地域の方との交流を深めています。午後のおやつ時にはみんなで歌を唄うことを日課としており、レパトリーもだいぶ増えています。介護フェスティバル等で大勢の人の前で歌を披露し皆様の自信へとつなげることもできました。町民文化祭にも共同作品や個々の作品を出展し地域の方と触れ合いながら達成感も味わっていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな山間地にホームがあり、入居者は四季の移り変わりを眺め、山菜取り等を楽しみながら暮らしている。川崎町は高齢者向けの行事が多く、イベント見学・合唱への出演・共同制作絵画の出展などで積極的に参加している。老人ホーム・特養施設と併設の長所を活かし、地区住民も喜ぶ夏祭りや花火大会には地域住民を招待し、交流を広げている。人家が散在する為、近隣住民の防災訓練の参加はないが、併設の施設が避難誘導の役割を担って防災訓練に参加しており、実践的方法として期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム さわやか)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに全職員と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、毎朝仕事始めに全員で唱和し共有することで実践につなげています。	年度当初に全職員が集まり、話し合う中からその年の事業所理念を決めている。今年度は、明るい笑顔、一人ひとりの思いに寄り添い心とむ生活、地域交流を深めるを掲げ、名札にも書き込んで実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の行事に積極的に参加し交流を図っています。また、町への買い物や町の社会資源を利用することにより地域とのつながりを持ち地域の一員として日常的に交流できるようにしています。	町民文化祭には飾りつけかぼちゃの出展とイベントの見学で参加している。3事業所共同で行う夏祭りには、地域住民送迎用の車を準備し、参加を得ている。交流の中でホームは生活の場との認識が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及活動としてキャラハンメイドの一員となり活動をおこなっている。また介護フェスティバルにおいて利用者全員で歌の発表を行い施設においても意欲的に生活している事を地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	向法人の4施設合同の運営推進委員会であるが2カ月に1回施設内での活動や取り組みについて報告し合い意見交換を行ったり、推進委員の方からの情報提供や要望等頂き話し合っていくことでサービス向上に活かすことができている。	法人4事業所合同で町社協代表を議長に会議が運営されている。区長・町の担当課・包括職員・家族・事業所で構成し、地域動向・防犯・交通安全等も取り上げられ、信号機・街灯・バス停の増設に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	川崎町ケアマネジャーの事例を通じた研修や介護職員研修会等があり積極的に参加することで他事業所の職員や町の職員とも交流をはかることができ、情報交換の場もなっている。	町や地域包括が計画する研修会には欠かさず参加させており、職員は職場に報告することで情報の共有に繋げている。居室に空きが出た場合には、地域包括支援センターに情報を入れるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束での研修会に参加し禁止の対象となる具体的な行為を把握し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は日中はチャーム対応とし施錠はせず開放的になっていて抑圧間の無い本人本位の行動を尊重するよう取り組んでいます	身体拘束に関わる外部研修会に参加した場合は、資料・報告書等の回覧や職員会議等で共有している。落ち着かない方がある場合は、原因と対策について話し合い、共有するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し職員会議の場で内容の報告を受け職員全員が学ぶ機会を設けており、常に敬意を持った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町との連絡を密にし、必要に応じて対応して行けるよう制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書やさわやかの利用契約書をもとに十分な説明を行い理解・納得を図り不安や疑問点の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランを立てる際に家族様や利用者に話を伺い要望や意見等を反映させている。また細かいことでも家族様に電話を入れ連絡確認を怠らないようにしている。	家族会から運営推進委員を出しており、その会議での意見・要望を取り入れる様になっている。家族来訪時や電話での対応の際も運営への意見・要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全職員が参加する職員会議の場や毎朝行う申し送り時等で意見交換出来る場を設け意見や提案を聴き、運営に反映して行けるようにしています。	職員会議模様や申し送りは情報共有するよう努めている。昼60分の休憩時間は、職員要望を受けて、食事休憩30分・離席休憩30分と明確にした。敷地内の除草も3施設で役割を決め、エリア分けしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課では職員が自分で頑張った所等をアピールできるような書式となっていて評価につながっている。職員の個々の努力を把握し向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた研修を受ける機会を設けられるよう研修内容を確認し、全員が公平に参加できる様、状況に合わせた対応を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の同業者との研修会やスポーツ大会等に積極的に参加し交流する機会を作りネットワーク作りを強化しサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面談を行い入所に向けての不安や困っている事、要望等に耳を傾け、ケアプランに反映し柔軟な支援により安心を確保できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で家族の立場からの困っている事不安な事等を把握し要望に耳を傾け共感しコミュニケーションを取り信頼関係を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの情報収集シートに基づき必要としている支援を見極めていき、それに伴い他の社会資源の利用にも対応できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の考えを基本とし意思決定や持っている力に応じた日常生活の支援に努め関わって行く事で関係性を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「さわやか便り」や月ごとの近況報告等、家族の方との連絡を密に取り合い、施設での様子を知って頂く事で絆を絶やす事なく、共に支えて行く関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望に応じて、町の行事等積極的に参加し、町への買い物や町営やすらぎの湯への外出支援を行い、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めています。	墓参り、孫への手紙、昔の同級生との出会い等、馴染みの人や場との関係継続を大切にしている。水曜、日曜は買物日に当てて外出し、2カ月に一回は理髪師に来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を十分に把握し、おやつ時間等にレクリエーション等の活動を行い利用者間で関わりあえる機会を持ちコミュニケーションを通して一人ひとりが孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の状況に応じて相談に応じたり、必要に応じて経過をフォローし、関係を断ち切らない取組みに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、言葉を発しない方でも表情しぐさなどから想いを汲み取り、意向の把握に努めている。	夫々の思いや意向は気付きノートに書き入れ共有している。思いや意向を掴みづらい方は入所前に利用していたサービスの関係者に尋ねる等により、本人本位の支援が出来る様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや日々の会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方等を把握し、継続性のある生活を支援して行けるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の健康面、心身状態等を気づきノートや業務日誌に記録し職員間で共通の認識のもと現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度のケアカンファレンスや状況によっては申し送りの際や職員会議の場にてケアの在り方について話し合いその都度確認しあったり意見やアイデアを出し合い、より良く暮らす為の介護計画につなげている。	6か月毎の介護計画見直しに加え、ケアカンファレンス、月例の職員会議等で個々の入居者に合ったケアについて相談し、柔軟にケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で気付いたことを個別のケース記録に記載し職員間で情報を共有しながらカンファレンスを行い介護計画の見直しや実践に活かし支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までなしみの床屋さんを利用したいとかデイケアの利用、病院の付き添い等の要望に対して、本人やご家族様と十分に話し合いながらその時々々の要望に沿っていけるよう、状況によって判断し柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町で運営している温泉施設や食堂、国営公園等地域資源を活用し季節ごとの行事や個別の外出支援を通して豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医を優先とし、継続的に適切な医療を受けられるよう話し合っています。家族様の付き添いの場合は施設内の様子が明確に先生に伝わるよう説明したり症状をお伝えしています。	毎朝バイタルチェックを行っている。通院の付き添いは家族としているが、その際、生活の様子やバイタル表を渡し、細かい説明が必要であれば職員の付き添いも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している同法人の看護師と連携を図りながら協力を得ており、急変時の対応や処置方法について相談し、適切な受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には症状に至るまでの経緯や既往歴、ADLなどの情報を明確にしたサマリーを作成し病院側へ提出し、情報交換や相談に努めています。また可能な限り面会に行き病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況や症状によって柔軟に対応していますが、本人や家族様が不安にならないよう、早い段階から当施設でできる事出来ないことを説明し理解して頂き、今後の方針について考えて頂いています。重度化の場合においては同法人の特養への利用も可能であることをお知らせしています。	本人・家族への入所説明の際に重度化・終末期の対応を「指針」に基づき説明している。入居後においては、かかりつけ医、家族等と話し合い、特養施設申込み等も含めて家族希望に応える体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が救命救急の講習をうけており、年に一度消防署立ち合いの避難訓練の際にも救命救急や応急手当等の指導を受け、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している同法人の特養と経費老人ホームとで3施設合同の避難訓練を年3回実施しています。お互いの施設から応援者を出し、日中や夜間想定等色々な想定のもと状況に応じた避難ができるよう協力体制を築いています。	敷地内3施設合同で避難訓練を年3回行っており、軽費老人ホーム入居者に避難誘導の応援を貰っている。ホーム独自に夜間想定マニュアルに基づいて夜勤者向けに机上訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持った支援を心がけ元気に明るく笑顔で支援できるよう、理念にかかげ毎朝勤務職員全員で唱和しています。一人ひとりの人格を尊重し、支援する側とされる側の立場が逆転してしまわないよう心がけています。	敬意を払い、それぞれの思いに寄り添って心和む生活をホーム理念に掲げ接している。声掛けは「さん」付けとし、トイレ誘導はさりげない声掛け、居室への出入りは許可を得て、気配り・目配り・心配りを心掛け対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ際に等、自分で選ぶ環境を整え、季節にそぐわなかったりした場合にはさりげない声掛けにて別の選択肢を促しています。月に一度バイキング形式の食事を取り入れ好きな物を選んで食べる機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、職員にも毎朝発言してもらい利用者様にどうかかわり楽しみのある充実した生活を送って頂けるのかを考えて行動に移せるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪や入浴後には鏡を見ながら自分で髪をとかしたり、整えたりすることができるよう声掛けを欠かさないようにしています。ズボンの上げ下げが難しい利用者様にはさりげない声掛けにて手伝っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼と嚥下力に十分配慮した食事を提供できるように配慮し、食事が楽しみの時間となるよう支援しています。準備や後片付けも個々のできることで難しいことを把握したうえでの手伝いの声掛けを行い無理なく続けられるようにしています。	誕生日には希望の食事メニューとし、バイキング・餅つきなどを考えて、食事に変化と楽しみを作りだしている。調査訪問時は、山栗拾いの散歩で収穫した栗を剥いて作った栗ご飯を頂いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と排泄を合わせたチェック表とバイタルと食事、服薬、口腔ケアを合わせたチェック表にて一人ひとりの状態把握をし、体調の変化に早期に気づきそれに応じた支援ができるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い自分でできない利用者様には支援を行っています。一人ひとりの口腔状態を把握し、その人に合ったケアの仕方を話し合い実践につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分排泄チェック表にて排泄パターン、習慣を把握し個々に合った排泄支援を心掛けています。リハビリパンツ使用からピタリフィットパンツに移行できた利用者様も多い。	排泄チェック表を共有し、さりげなく誘導するよう努めている。リハビリパンツ着用者の「ゴウゴウして…」との不満に応え布製パンツを試したところ、4名中3名がそのパンツに変わり、不満が軽減された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人健康チェック表にて毎日の排便状態を把握しており、状況に応じて水分補給や軽運動の促し等を行っている。毎日の食事おやつにもヨーグルトや寒天、植物繊維の多く含まれた食品など多様し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜、水曜日以外は毎日入浴できるようにしています。順番は強要せず状況やタイミングを図りながら声掛けし、せかさずにゆっくりと入浴を楽しんで頂けるようお湯の温度にも配慮し、出来ない部分をお手伝いしています。	日曜と水曜は買物と行事に当て、それ以外は希望日時に入れる様にしている。職員は開放感に浸ってもらうよう対応しており、入居者同士の入浴や好きな歌を歌う等も勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の利用者様が多くなり寝ていたいという方には強要せずにタイミングを図りながら声掛けを行っている。昼食後には昼寝の声掛けを行い適度に休息を取って頂き、夜間は温度調節に気を配り安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋専用ファイルを作り、一人ひとりの服用している薬の内容を理解し服薬の支援にあたっています。薬の内容が変わった場合には服薬後の症状の変化に気を付け、服薬忘れのないように個人別健康チェック表にチェックを入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事等を把握し、力に合わせて役割を分担しています。天気の良い日には散歩に出掛けたり玄関先にて外気浴を楽しんだりして気分転換を図り施設内でも色々なレクリエーションを工夫し楽しんで頂いています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事の他にも個別の外出支援も行っており担当職員と相談しながら行き先を決め、買い物や外食、お墓参りなどに出掛けています。また地域の行事にも積極的に参加し交流を深めています。	月例の計画行事に加えて、町や地域行事への参加、隣接の特養と合同でのイベント、好天であれば付近の散策など外出機会を数多く設けている。入居者個々の希望にも応え、外出機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常では一律にお金をお預かりしていますが、行事での外出や個人での買い物等、一人ひとりの力に応じて所持したり使えるように柔軟に対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望により電話のやり取りがスムーズに行えるよう支援しています。手紙についても読み書きの苦手な利用者様には書きたい事を代筆したり代読したりして家族様や知人との関係の継続を図り安心して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には季節の花々を飾り彩りを持たせている。壁面には共同の製作活動を通して四季折々の飾り付けを行っています。木造建築で夏は涼しく冬は温かく過ごせるような作りとなっています。	中庭を三方から眺められる回廊を配した構造で採光も良く、温度差の少ないホームである。食堂や回廊の壁には入居者が作った作品が飾られ、食堂・炬燵のある茶の間・居室と様々な寛ぎ方が出来るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間のコタツは一年を通し自由に使用できるよう安全面に配慮し思い思いに過ごして頂いています。テレビのスイッチも操作できるように置いてあります。廊下の陽のあたる所を見つけては日向ぼっこをされたりとご自分で工夫されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使用していた物や馴染みの物、食器類においても使い慣れた物好みの物等持参して頂き、居心地良く継続性のある生活を送って頂ける様工夫しています。	居室は和・洋どちらにも使えるタイプである。持ち込みや飾りつけは自由で、使い慣れた収納ケースや写真・趣味の絵画等が持ち込まれている。居室で入居者同士の会話や交流もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは車椅子でもスムーズに使用できる様な広さが確保されており手すりにつかまり立位を確保できている。各部屋には障子戸が付いており陽の光を感じやすく又温かみも感じて頂いています。		